

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

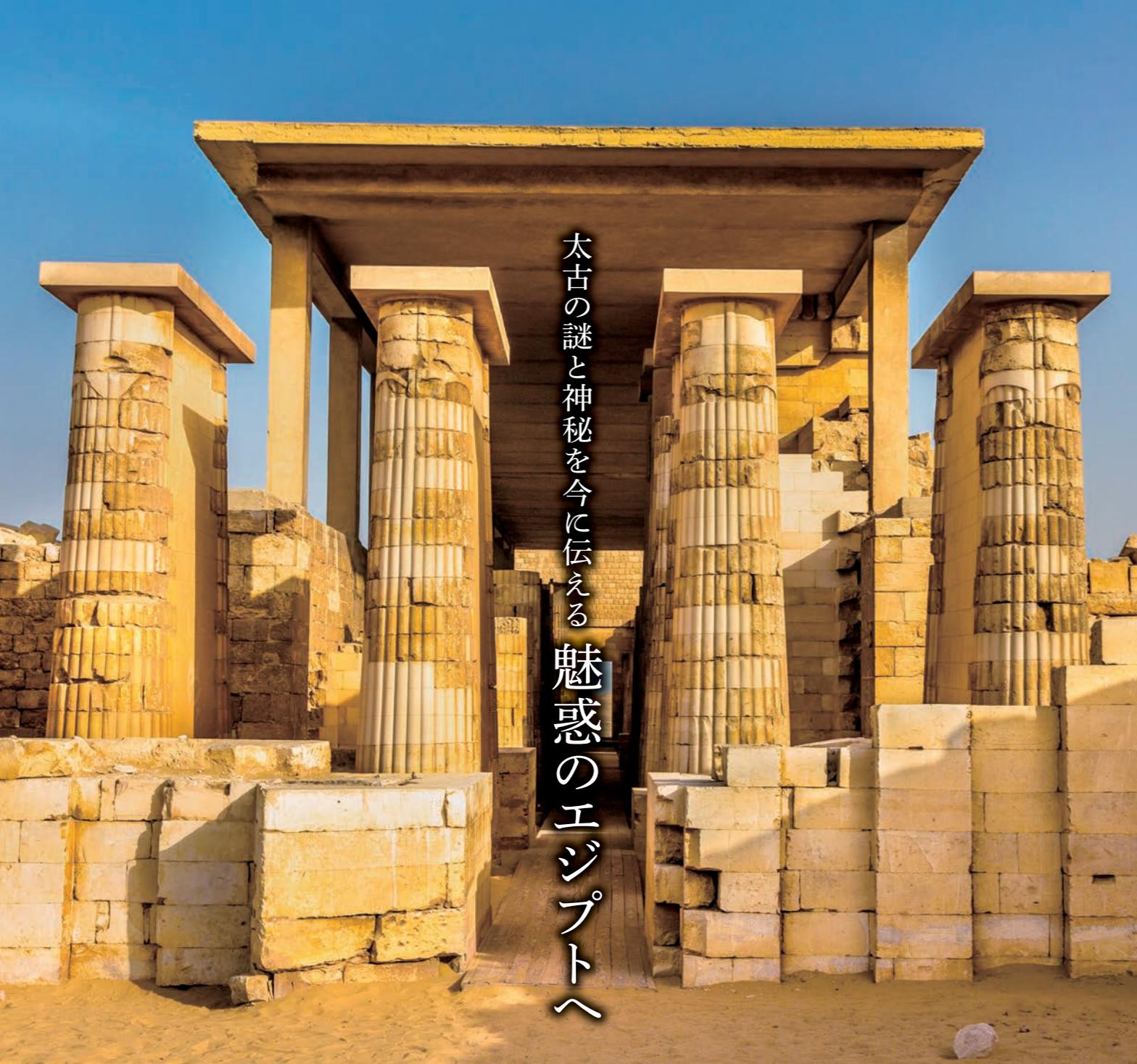
PEACE BOAT

2018

Summer

憧れのエジプトへ

第二特集
南極大陸に最も近い港町
ウシュアイア [アルゼンチン]



DREAM EGYPT

Port Said & Cairo

第101回、第102回ピースボート地球一周の船旅で寄港予定のエジプト。ピースボートクルーズがエジプトを訪れるのは、実に6年ぶりのこと。数千年の歴史を伝えるギザの三大ピラミッドやスフィンクスなど「一生に一度は見てみたい」と申込者からの人気も高い寄港地のひとつだ。古代ロマンが凝縮され、世界中の旅人を魅了してやまない特別なひとときへ——。水先案内人・吉岡淳さんにもお話を伺い、エジプトの魅力に迫った。

CONTENTS

特集

太古の謎と神秘を今に伝える
魅惑のエジプトへ P3

エジプトの歴史 P4

ポートサイド&カイロ P6

エジプトのグルメ&グッズ P8

シップリンが教える船の雑学 P9

寄港地に行く

世界遺産の街
グアテマラ・アンティグア P10

第二特集

南極大陸に最も近い港町
アルゼンチン・ウシュアイア P12

PEACE BOAT NEWS P16

PEACE BOAT TOPICS
石川県「白山米」 P18



Ocean Dream

エジプト・ポートサイド港停泊中のオーシャンドリーム号

表紙の写真

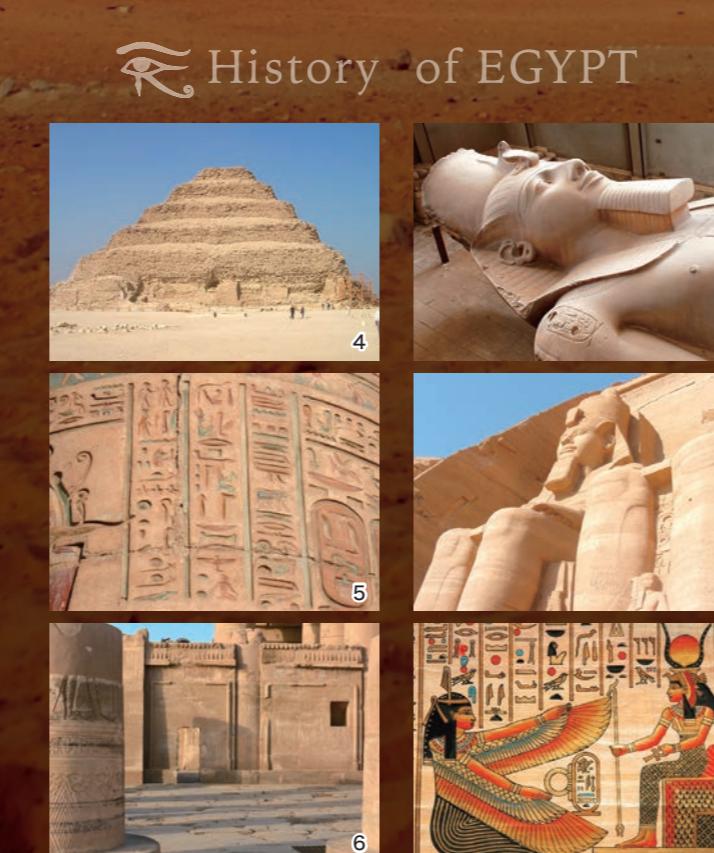
エジプトといえばスフィンクス。第101回、102回クルーズで寄港予定。



ナイル川の恩恵を受けた謎多きエジプト文化

エジプトの世界遺産といえば、だれもが思い浮かべるのが「ピラミッド」だろう。いまだ、その建設方法や目的は謎に包まれたまま、多くの仮説は存在するものの、決定的な証拠は見つかっていない不思議な建造物だ。特に有名なのは、ギザ高原に建つクフ王、カフラー王、メンカウラー王のピラミッドの3つ。これらのそばには、かの有名なスフィンクスの石造も並ぶ。三大ピラミッドの中で最も大きいのはクフ王のもので、高さ約147メートル、底辺は約230メートルで、平均2.5トンの石が約280万個も使われている。この圧倒的なスケールには思わず息を呑む。これら以外にも、エジプトでは多数のピラミッドが世界遺産に登録されていて、太古の謎と神秘を今に伝えている。

さて、これらエジプト文化に大きく関わるのが、首都カイロに近く、エジプト東部を流れる「ナイル川」だ。地中海へと繋がつて



1:横たわるラムセス二世の像是超巨大。
2:エジプト南部のアブ・シンベル神殿。
建造主は同じくラムセス二世。
3:芸術性の高い古代エジプトの壁画。

にも反映され、カルナック神殿やルクソール神殿などの神殿群は東岸に建設されている一方で、黄金のマスクで有名なツタンカーメン王の墓やハトシェプスト女王葬祭殿などの墓地遺跡群は、西岸に位置している。このようなことを知った上で、自身が訪れる観光地がナイル川のどちらに位置するのかを気にしながら観光するのも、この土地ならではの旅の楽しみ方かもしれない。

そして、これら神祕に包まれたエジプト文化に触れるには、エジプト考古学博物館がおすすめ。館内には25万点以上の文化遺物が収められ、ツタンカーメンの黄金のマスクをはじめとする秘宝や出土品、棺など、どれも見ごたえがある。特に見る価値があるのは、ヒッタイトの戦いなど有名なラムセス2世のミイラ。ほかにも、ヒログリフと呼ばれる文字が発明され、さまざまな記録が残されたパビルスも見られるなど、当時の生活の様子を肌で感じ取ることができるはずだ。近い将来、

世界遺産に詳しい
水先案内人に
ご協力いただきました。



日本ユネスコ協会連盟の元事務局長として、30年に渡り世界遺産の保護や広報活動に携わる。また、地域でできる地球に優しいライフスタイルを提案するオーガニック料理の店「カフェスロー」を2001年に設立し新しい文化を発信し続けている。著書に「しあわせcafeのシンプル・カフェスローものがたり」(自然食通信社)など多数。



もオープン予定。誰も答えを知らない、神祕に包まれたエジプトは、今なお世界中の人々を魅了し続けている。

南北に流れているこの川に根付く独特な世界観も興味深い。それは、太陽が昇る東岸は「生者の世界」とされ、太陽が沈む西岸の砂漠地帯は「死者の世界」とされているというものだ。この考え方は建造物

ロの巨大な三角州が形成されている。ナイル川のことを語る上で外せないのが、古来より定期的に起きていた川の氾濫についてだ。この氾濫によつて、周辺の耕地全体が一度冠水するものの、結果として水が引いた際に上流から運ばれてきた沃土が堆積し、豊かさを毎年のように生み出していた。古代ギリシアの歴史家ヘロドトスが残した「エジプトはナイルの賜物」という言葉が示すように、高度な工

肥沃な大地によって形成されていた。南北に流れていたこの川に根付く独特な世界観も興味深い。それは、太陽が昇る東岸は「生者の世界」とされ、太陽が沈む西岸の砂漠地帯は「死者の世界」とされて

港町ポートサイドから「千の塔の都」カイロへ



海の玄関口ポートサイドから、首都カイロを巡る旅。エジプトの定番といえば、ピラミッドやスフィンクスを思い浮かべるかもしれないが、それ以外の魅力もいっぱいだ。

Port Said ポートサイド

世界の船が行き交う
スエズ運河北端の港湾都市

1:大小さまざまな船で港は賑わう。2:下船するなり露店で買い物も。3:何のお店かわからないこともしばしば。4:人口増加に伴い自動車の数も激増中。



地球一周クルーズのハイライトのひとつ「スエズ運河」を抜けると現れるのがエジプトの港町ポートサイド。昔から綿花や米などの重要な輸出港として栄え、いまでもスエズ運河を通る船の燃料供給地として、世界中の多くの船が集う場所だ。

港には、ところ狭しと露店が並び、着岸するなり商人たちが色々とりの土産物を持って近寄ってくるのはポートサイド名物。お目当ての土産物を早速手に入れられるチャンスだけにアラブの商人たちとのかけひきにチャレンジしてみるのもひとつだ。港を出ると街はすぐ目の前。ポートサイド全体はこじんまりとした印象だが、時間によってはコーランが本船まで聞こえてくるなど、エジプトの息吹を感じるには最適な街だ。

古い建物が残っていることも多く、各階にアーチ型の窓と大きなバルコニーがあるのが目印。ほかにもアラビア語で書かれたお店の看板などすべてが新鮮で、遠い異国への足を踏み入れたことをすぐに実感できるだろう。

スエズ運河の対岸には、ポート・アードという街があり、多数のフェ

リーが行き交う様子がうかがえる。

特に船着き場近くの「ポート・ファード・ゲランド・ガーマ」というモスクにそびえる2本の立派なミナレット（尖塔）は有名。エジプトの玄関口。

ポートサイドでのたくさんのお店が新鮮で、遠い異国への足を踏み入れたことをすぐに実感できるだろう。

期待も膨らむはずだ。

車窓で楽しむことになるカイロの街は、2007年に世界遺産に登録されたカイロ東南部の「カイロ歴史地区」を中心に見どころは充分。この地区には、シタデルと呼ばれる城塞があるイスラム地区（旧市街）や、キリスト教の流れを汲んだ教会などが多く残るオールドカイロと呼ばれる地区が含まれる。イスラム文化による歴史的建造物も数多く残り、600を超えるモスクや、1000以上のミナレットを擁することから「千の塔の都」という異名も持つ街だ。

ほかにも、一度は通りかかるのが、カイロで一番大きな広場である「タハリール広場」。2011年アラブの春の革命の舞台となつた場所で、新生エジプトを象徴する場所だ。船から感じたナイル川の静けさとは反対に、エジプトの今を映し出す街の喧騒が印象的だろう。ほかにも運がよければ、ナイル川の中州にある高さ187mを誇る街のシンボル「カイロタワー」が見られることも。

カイロマックスは、定番のギザの三大ピラミッド。ラクダを引いたアラブの商人の客引きの声にはもう慣れた頃だろうか。ここでは3つのピラミッド一枚に収めた記念撮影もお忘れなく。

最後に、この国を楽しむ最大のポイントは、イスラム教に対しての敬意を払うこと。肌を露出した服装は控え、原則禁止されている飲酒をおおっぴらに行わないことなどに気をつければ、彼らとの心の距離もぐっと近づくはずだ。

Cairo カイロ

イスラム世界の
学術・文化・経済の中心都市



5:アズバル・モスク横には世界最古の大学も。6:エジプト考古学博物館は必見。7:カイロ市街地から見るピラミッド 8:カイロタワーは街のシンボル。



EGYPT

Food & Goods

街歩きを彩る

エジプト料理と

充実のお土産

シップリンが教える
船の雑学

Break Time



船の歴史は、地球上に人類が誕生したときからはじまったとされます。船の動力も櫂から帆へ、そして19世紀には蒸気機関が使用されるように。船体の材料も木から鉄、鋼鉄と変わり、今日にいたります。日々進化を遂げる船の雑学を、ピースポートオリジナルキャラクター・船の妖精シップリンに教えてもらいました。

Trivia.1

左舷側をポートサイドと呼ぶ?

かつて舵を取るための板は船尾の右舷側にあり、舵のない左舷側を港につけて人や積み荷の出し入れ口に。その名残で左舷側はポートサイドと呼ばれています。

Trivia.2

「面舵いっぱい」の由来は?

方角を十二支で示していた頃、船を右に回転させたい場合に卯の舵(うのかじ)といっていたのが転じて面舵(おもかじ)と呼ばれるようになったとされます。

Trivia.3

左右のライトの色が違う?

進行方向がほかの船からわかるようにするために、左舷は赤色、右舷は緑色の航行灯がつくように定められています。これらは飛行機にも適用されています。

Trivia.4

外国船は女性の名前が多い?

英語圏では船は“She”と呼ばれ、女性名詞として扱われます。頻繁にペンキを塗り替える様子を化粧に例えたなど、諸説あるようです。

Trivia.5

船底の色が赤いのはなぜ?

カキやフジツボ、アオノリといった動植物の船底への付着を防ぐための赤い塗料成分に由来します。水生生物が付着すると水流の抵抗も増加してしまうのです。

Trivia.6

船は急には止まれない?

船にはブレーキがなく、後進をかけて速度を調整。それゆえ船の操縦で一番難しいのは、着岸時。タグボートの力を借りて船を押したり引いたりして着岸させます。



エジプト料理は意外にも口に合うと乗船者にも人気。



エジプト料理の代表コシャリ。屋台で安く気軽に食べられる。



キャベツを巻いた家庭料理マジー。



カレーも美味。豊富なメニューについて迷う。



ボリュームには大満足。シェアして楽しむのもよい。



色とりどりの野菜が食欲をそそるカッテージチーズのピザ。



現地のパスタは絶品。エジプト料理はバラエティーの豊かさが特徴で、いい匂いが街にも漂う。



お土産からも独特のエジプト文化を感じられる。



エジプトのネックレス、カルトゥッシュは女性に人気。



アラブ音楽にはかかせない弦楽器ウード。色や柄も豊富だ。



さまざまな香りが楽しめる香水瓶。装飾の緻密さは見事。



ツタンカーメングッズは種類も豊富。



家に飾っておきなくなるかわいらしい小物も多数。ピラミッドのお土産は定番だ



コップは船内でも使って便利だ。



露店ではさらびやかな金属細工をよく目にします。

カイロ市内の土産物屋は、ところ狭しとエジプトならではの大小さまざまなお族衣装など、見るだけでも充分楽しめる。目当てのものが見つかったら、ぜひアラブの人相手に値段交渉を。

土産が並ぶ。金属細工や民族衣装など、見るだけでも充分楽しめる。目当てのものが見つかったら、ぜひアラブの商



グアテマラ共和国



Antigua
世界遺産

世界遺産の街

グアテマラ・アンティグア

スペイン植民地時代の面影が残るカラフルな古都

石畳の道が碁盤の目状に走り、おしゃれな土産物屋や喫茶店が並ぶカラフルな街アンティグア。1979年に世界遺産に登録され、街のいたるところでスペイン植民地時代の面影を感じられる。船が着くエルトケタル港からは車で一時間半ほど。ゆるやかな道を行く車窓からは、サトウキビ畑やコーヒー畑、そして立派にそびえる火山を望むことができる。

アンティグアは、3つの火山に囲まれた高原にあり、かつてはグアテマラの首都として栄えた場所。しかし

1773年の大地震によつて大きな被害を受け、首都は現在のグアテマラ市に移った。大地震で人々は街の再建を諦め、結果として生まれたのが、当時の街並みをそのままに残す「世界遺産・アンティグア」なのだ。

そんな街を見守るようにそびえるのが、富士山のような美しい稜線が特徴の「アグア火山」。高さは3760メートルで、3776メートルの高さを誇る富士山との差はわずか16メートル。しかし実際に現地で見てみると、富士山ほど高さを感じられない。その理由は、アンティグアの街が1500メートルという高さに位置するためだ。



1:アグア火山と街並みを一望できる「十字架の丘」。2:大地震で崩れたままの建物も多い。3:カラフルな土産はすべて手作り。4:伝統的な民族衣装を着た子どもたちの笑顔が印象的。

Antigua Guatemala Food & Goods

丁寧に作られた民芸品の数々に、古くから伝わるヘルシーな食事。どれも地元の人々のぬくもりが伝わるものばかりだ。

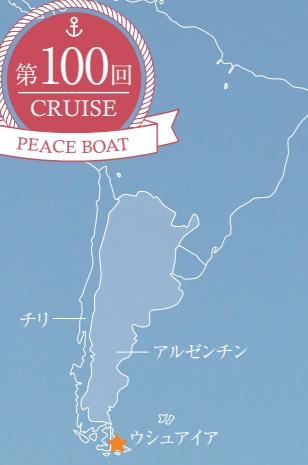


メルセー教会と並んで有名な「サンフランシスコ教会」。

かつての大地震によって崩壊した教会などは、今も街のいたるところに残り、観光名所としてにぎわう。そのなかでも有名なのが、時計台エル・アルコをくぐるとすぐに姿を現す「メルセー教会」だ。1751年に建造されるも、大地震により倒壊。その後1855年に再建され淡く黄色い色調と壮麗な装飾が見事だ。このほかにも、入場料を払って中に入ることができる史跡もあり、まるで過去にタイムスリップしたかのような不思議な感覚に陥る街歩きが楽しい街だ。

高い建物も少なく、どこを切り取つても絵になるアンティグア。散策していくと、さまざまな民芸品を敷物に広げ、マヤの民族衣装をまとった商人たちにもよく出会う。そこでひと際目を引くのが、カラフルな織物の数々。家族や友人へのお土産にもおすすめだ。また明るく気さくな彼らとの交流もきっと楽しいはず。その一方で知つておきたいのは、この街はいまだ貧富の差が激しいという現状。商人のほとんどが郊外から市街地へ働きに出で、貧しい生活を強いられているとい

う人が多い。彼らの暮らしにも思いを馳せ、交流を楽しんでもらいたい。さて街歩きのハイライトは、街を少し離れた「十字架の丘」と呼ばれる高台。街の中心部からは歩くこと約30分。ここからはアンティグアの街並みが一望できる。そして正面に堂々とそびえるのは、この街と長年の歴史と共に歩んできたアグア火山。絵はがきのような美しい風景の連続は、乗船者の期待度を越えることもしばしば。あまり知られていない世界遺産だけに、今のように訪れておきたい場所のひとつだ。



POLO SUR 3.926 Km

港に入るなり目の前に広がるのは、雄大なマルティアル山脈。その山の裾野に広がるのが、ウシュアイアの街だ。多くの探検家はこの街からビーグル水道を通り、南極大陸を目指した。ウシュアイアのあるフエゴ島は、南米大陸の南端にひしめき合う複数の島々の中のひとつ。これらの諸島は“火の土地”を意味する「ティエラ・デル・フエゴ」と呼ばれ、かつて先住民族たちが暖をとるために島のあちこちで焚いていた火に由来する。そんなフエゴ島だが、最果ての孤島ゆえに20世紀前半には凶悪犯の流刑地となっていた側面も持つ。

飛行機でなく、船で行くくらい。日本から遠く離れた世界の最果てへ、時間をかけて訪れた分、この地で出会うことになるさまざまな感動は何倍にも感じられるはずだ。

南極大陸に最も近い港町 ウシュアイア (アルゼンチン)

古くより南極探検の拠点として栄えてきた街・ウシュアイア。南極大陸への距離はおよそ1000キロ。「世界の最果て」を求めて今なお多くの観光客が南米大陸最南端の地を訪れている。



ピースボートクルーズがこの街を訪れるのは夏のシーズン。南極大陸周辺の冬の厳しい環境を乗り越え、緑が生い茂ったたくましい景色が本船を迎えてくれる。港にはたくさんの遊覧船や探検船が浮かび、その多くがビーグル水道を通じて世界中の観光客を南極大陸へ連れて行くもの。南極海沿岸に生息するペンギンの観測地としても有名で、ツアーバイオニアによってはそれを見られることがある。海からは強い風が吹き、ウシュアイア西方には風の影響で斜めに傾いたままの木があるほど。この地を踏んだ数々の探検家が体験したであろう大自然の迫力は今も変わらない。



街中を散策
Walking

南極を感じる
Antarctic

7:記念撮影に人気の世界の最果て看板。8:色鮮やかな「世界の最果て号」。9:かつての監獄を利用した博物館。



1:航海中には海に氷が浮かんでいるのを見ることも。2:この地に生息するペンギンも。3:特に人気のパタゴニアフィヨルド遊覧。

10:ペンギングッズは大人気。11:割れ物のお土産も船なら安心。12:Tシャツには各言語で「世界の最果て」の文字が。



13:食が充実しているのもこの街の自慢。14:現地のラム肉はくせもなく美味。15:カニ料理は現地に詳しいスタッフもお墨付き。



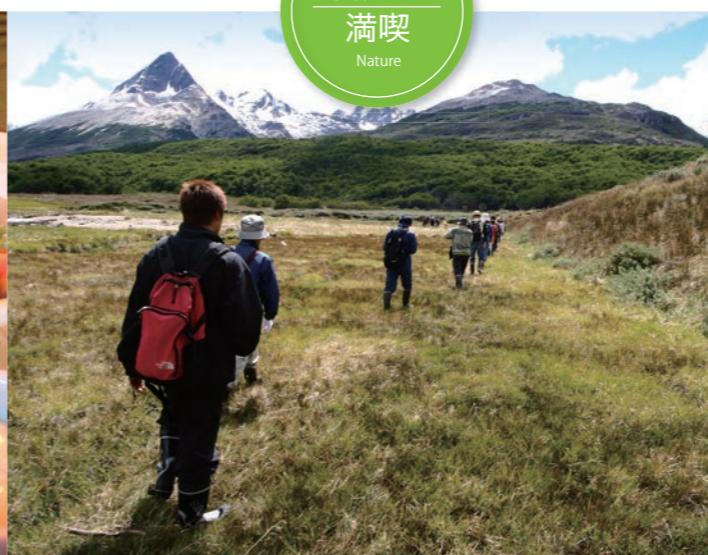
4:観光列車からはのどかな光景の連続。5:広大な国立公園で大自然を満喫。6:トレッキングはシニアの方にも人気。

南極大陸に最近い港町ウシュアイア

ウシュアイアで必ず食べておきたいのが、アルゼンチンの伝統的な焼肉料理「アサード」だ。何時間もかけてじっくりと炙り焼きされた肉は、無駄な油も落ちて絶品。またカニをはじめとした新鮮なシーフードも有名で、レストランの店先にいけすがあることもしばしば。日本ではなかなか見かけることのないような巨大ガニも堪能できるので、ぜひ複数人で訪れてチャレンジを。そしてこれらの食事に華を添えるのは、アルゼンチンを比較的安価に入手でき、重く割れやすい荷物も安心して運べる船旅のお土産にはぴったりだ。



グルメを堪能
Gourmet



自然を満喫
Nature

列車「世界の果て号」に乗つてティエラ・デル・フエゴ国立公園へ。この列車はもともと囚人たちを移送するためのものだったというから驚きだ。車窓からは、過酷な環境を耐え抜いた亜南極地域特有の植物たちを望める。広大な国立公園には森や湖が広がり、体力に自信のある人は、ハイキングやトレッキングがおすすめ。湿地帯を訪れるとき、ビーバーの作ったビーバーダムが見られることがある。ほかにもエンセナーダ湾にぽつりと佇む「世界の果て郵便局」を訪れてみるなど、雄大な自然の中でどう過ごすかは人それぞれだ。

大自然を満喫するなら観光列車「世界の果て号」に乗つてティエラ・デル・フエゴ国立公園へ。この

列車はもともと囚人たちを移送するためのものだったというから驚きだ。車窓からは、過酷な

環境を耐え抜いた亜南極地域特有の植物たちを望める。広大な

国立公園には森や湖が広がり、体力に自信のある人は、ハイキン

グやトレッキングがおすすめ。湿

地帯を訪れるとき、ビーバーの作ったビーバーダムが見られることがある。

ほかにもエンセナーダ湾にぽつりと佇む「世界の果て郵便局」を訪れてみるなど、雄大な自然の中でどう過ごすかは人それぞれだ。

船上百景 [ブリッジ]



実際に本物の舵輪に触れられることも。目の前の大海上に思わず老若男女問わず参加者は大興奮。



これら精密機器が安全な船旅を支えている。



本船事務局長の説明にみな興味津々。

世界の海を見つめ続けた操舵室
船で旅をすれば、一度は「見てみたい」と思うのがブリッジ（操舵室）。ここを特別に見学できる「ブリッジツアー」は参加者に大人気。普段はもちろん一般の乗船者は立ち入り禁止の場所。クルー（乗組員）でもここに入ることができるのは限られているからとても貴重な機会だ。ブリッジ内は精密機器も多く、入れる人数も限られているためグループに分かれてツアーは催行される。長年勤めた仕事を引退して乗船したという60代の男性に聞くと「全面ガラス張りですし、左右に大きくせり出した作りになつていて、視界いっぱいに広がる大海原が気持ちがいいですね。つい少年のようにはしゃいでしまいました。船長としての人生も歩んでみたかったです」

世界の海を見つめ続けた操舵室からは、ほかでは味わえない格別な景色がきつと広がっているはずだ。

また、彼らの航路は、シンガポールやコロンボを経由する現代のピースボートルートと同じルートでしたが、エジプトを訪れた際は、そんな150年前の若者たちに思いを馳せながら、彼らが「三角山」や「首塚」と呼んだピラミッドやスフィンクスを眺めてみるのもひじですね。(N.L)

寒さ厳しい2月上旬、横浜の港から27歳の若者が出帆した。国の代表としてフランス皇帝と直接交渉をするために一時は幕末、青年の名は池田長発。34名からなる遣欧使節団の団長で、約150年前に撮影された有名な「スフィンクスと侍」という写真に写る27人の侍たちの中の一人です。横浜港を閉鎖するという交渉は失敗に終わりますが、最後は自分の考えを180度変え、日本が開国へと舵を切る約定を勝手に結んで帰国します。

日本を離れ知らない世界を知る。

見るもの触れるものすべてが新鮮で大きな衝撃を受ける。そんな実体験が彼ら若者の考え方を根底から変えついたのでしょうか。やはりいつの時代も旅には人を大きく変えるパワーがあるんですね。



集
編後記



Ishikawa Hakusan Rice



白山米



1:田植えの様子を実際に見学。長年培われた技術はさすがのひと言。
2:ジャパングレイス社員も田植えを体験。
3:愛情込めたお米に対する目は真剣そのもの。
4:ピースポートのオリジナルキャラクター「シップリン」も様子を見守った。
5:オリジナルの横断幕の前で集合写真。



きたあと、夕食でおいしい白山米を食べて、また翌日からの世界一周を楽しんでもらえたら」と話す。さらに今回の採用に伴い、白山米

白山米の採用にあたり、ジャパングレイススタッフは実際に白山の契約農家を訪問。そこでは契約農家の方々と一緒に田植えなども体験した。今回の採用にあたって、生産者の顔が見えること「にこだわったことについて、契約農家の方々は「私たちとしても、普段出荷されたものが、どのような方々が食べてくださっているのかわからない部分

もあったので、それがわかるのが大変うれしいです。そして、日本人だけでなく、一緒に乗船する海外のお客様に食べてもらえるのも非常にありがたい。真心込めて作ったお米が、世界に羽ばたくと思うと感無量です」と話す。

今回採用された白山米の「ゆめみづほ」は、石川県の早生品種の代表格にあたり、母親が「ひとめぼれ」、父親はコシヒカリの血統を受け継ぐ「越南154号」。両親のよいところを受け継ぎ、炊きあがったあともおいしさが長く続く点は、1000人を乗せるピースボートクルーズにはぴったりだった。

今回の白山米採用に関わったジャパングレイススタッフも「お会いした契約農家の方々は、本当にこだわりをもつて米作りをしている。そんな方が、白山の伏流水が流れる豊かな環境で作った魅力あるお米です。寄港地観光から帰ってきたあと、夕食でおいしい白山米を食べて、また翌日からの世界一周を楽しんでもらえたら」と話す。さらに今回の採用に伴い、白山米

で作られた自慢の日

本酒も、洋上居酒屋

「波へい」で取り揃えられる予定だ。

ジャパングレイスの食へのこだわりはお

米以外にも。船内で

提供される魚はすべ

て築地市場で仕入れ

たものを特別な冷凍

庫で管理し、常に新鮮なものを提

供している。洋上で食べられるお

寿司はまさに自慢の逸品だ。ほか

にも寄港地の食材を使つたローカ

ル料理が用意されるなど、船内で

提供される料理はきっと誰もが樂

しめるだろう。

地球の裏側にいても、日本のおいしいお米を。それぞれの想いが込められた白山米とともに、第99回地

球一周クルーズがまもなく出航する。



新鮮さを保つため、精米されたばかりの白米を使用。



地元の新聞でも白山米採用のことが取り上げられた。今度はピースポートが白山米のおいしさを世界中に発信していく番だ。

白山のおいしいお米を、どうぞ船の上でお召し上がりください。

第99回 地球一周クルーズから、

石川県白山市で生産された「白山米（ゆめみづほ）」が船内で提供されるお米として採用された。今まで船内で提供されていたお米は、クルーズごとにブランドが変わり、船者に提供したいというジャパン

グレイスの想いもあり、このたび品評会を経て白山米が採用された。白山米は、味・香り・粘りともに優れ、特に炊きあがつたあともおいしさが続く点が魅力。加賀から能登まで石川県下全域で栽培されているブランド米だ。

一度のクルーズで船に載せるお米の量は約20トン。今回、そのすべてに白山米が採用されたことで、朝食から夜のディナー、洋上居酒屋「波へい」のおにぎりまで、地球の裏側にいながらも、こだわりの白山米がいつでも楽しめるようになる。

image photo